

食農総合研究所の研究組織

食農総合研究所

研究部門(研究ユニット)

都市農村共生
研究部門(研究ユニット)

研究ユニットのキーワード

コミュニティ再生、協同による農林地活用、景観保全、グリーンツーリズム、担い手育成・経営継承、移住交流、外部サポート人材など

地域資源活用
研究部門(研究ユニット)

再生可能エネルギー、農林水産物活用、技術開発・実用化、6次産業化、農商工連携、マーケティング戦略、空き屋再生、廃校舎活用など

ICT活用
研究部門(研究ユニット)

紀伊半島 Big Data、ICT農林漁業、防災・減災・復興、情報アーカイブ、ロボティクスなど

研究ユニットは、都市農村共生、地域資源活用、ICT活用の研究部門ごとに設置する。このほか教育研究ユニットを設置することができる。研究ユニットは、研究交流、研究サロンや研究セミナー等の開催、プロジェクト研究(競争的資金の獲得、共同研究・受託研究等)などに取り組むことができる。(「研究ユニットの設置及び活動について(申し合わせ)」)

食農総合研究所設置要項抜粋

(目的) 研究所は、和歌山圏域を中心に、食と農林水産業(以下「食農」という。)の分野に関わる研究活動を通じて、学術研究の発展と地域社会との連携や地域貢献機能の強化に資することを目的とする。

(業務) 研究所は、前条の目的を達成するため、次の各号に掲げる業務を行う。

- ①食農の分野にかかわる研究・調査
- ②学術研究発展のための学内研究交流
- ③学内外ネットワークの構築による競争的資金の獲得及び受託・共同研究
- ④学術情報の集積と発信・交流
- ⑤多様な学内外における教育機会の提供と寄与
- ⑥地方創生と地域活性化への貢献
- ⑦その他、研究所の目的達成に必要な事項に関すること

研究所連絡先一覧

- 所長：大浦研究室
073-457-8571 西4号館2階203
- 副所長：藤田研究室
073-457-8566 西4号館1階113
- 副所長：岸上研究室
073-457-7244 西3号館4階426
- 研究部門室1：辻研究室
073-457-7750 西3号館4階425
- 研究部門室2：植田研究室
073-457-7714 西3号館4階407
- 研究部門室3：枚本研究室
073-457-7748 西3号館4階406
- 研究部門室4：戴研究室
073-457-7702 西3号館4階401
- 研究所オフィス
073-457-7126 南1号館3階

住所：〒640-8510 和歌山市栄谷930
和歌山大学 食農総合研究所(地域活性化総合センター)
Research Center for Food and Agriculture, Wakayama University

地方創生推進・食農協議会

和歌山県農林水産部、市長会、町村会、農業協同組合中央会、森林組合連合会、漁業協同組合連合会、公益団体法人わかやま産業振興財団、食品産業協議会の参画を得て、地方創生推進・食農協議会を設置しています。協議会では、研究所の業務、研究活動などについて意見交換・情報交換を行います。

地方創生・食農アドバイザーボード

学識者(自治体関係者、県OB等)、他機関研究者、食品関連企業関係者、和歌山大学教員OB等の参画を得て、食農アドバイザーボードを設置しています。食農アドバイザーには、研究所活動に対するアドバイスや提言をいただきます。

アクセスマップ



南海「和歌山大学前」駅から和歌山バスで約4分
南海「和歌山市」駅から和歌山バス(6番・7番乗場)で約20分
JR「和歌山」駅から和歌山バス(4番乗場)で約30分

和歌山大学ホームページ：https://www.wakayama-u.ac.jp
食農総合研究所ホームページ：https://www.wakayama-u.ac.jp/food-agri/

和歌山大学 食農総合研究所

(地域活性化総合センター)

都市農村共生

地域資源活用

人で活かす
Human

技術で活かす
Technology

農 テロワール*を活かした
の新たな価値創造

情報で活かす
Information

ICT活用



和歌山大学 学長
伊東 千尋

和歌山県は特に果実を中心とした優れた農産物を生産しており、市場での高い競争力を誇っています。みかん、うめ、柿は収穫量で日本1位であり、もも、すもも、キウイフルーツなども上位となっています。しかしながら、和歌山の農業従事者数は毎年減少している現状です。他県と比べて専業農家率が高い和歌山では、単なる農産物生産ではなく、農産物に新しい価値をつける食品産業と農業の融合あるいは連携が重要です。同様な状況はやはり優れた産物を生み出している水産業、林業にも当てはまります。

このような背景から、和歌山大学は平成28年4月に食農総合研究所を設置いたしました。食農総合研究所の使命は、農業に留まらず農林水産業の分野に関係する学術的研究活動を行うとともに、地域の農林水産業の発展を図ることです。食農総合研究所はこの使命を果たすべく、和歌山大学の持つ知的資源を活用して、和歌山県の優れた農林水産物を活かした地域活性化に資する取り組みを進めているところです。地域の皆様のご理解とご支援を賜りますよう、お願い申し上げます。

*テロワール(仏:Terroir):狭義にはワインの原料となるブドウの生育環境としての気候・風土を、広義には地域資源のもつ固有性・歴史性(物語性)を指す。

研究所長
あいさつ



本研究所は、和歌山圏域を中心に、食と農林水産業の分野にかかわる研究活動を通じて、学術研究の発展はもとより、地域社会と大学との連携を強化し、地域貢献機能をより一層発揮させることを目的として設立されました。研究所には、都市農村共生、地域資源活用、ICT（情報通信技術）活用の3研究部門を設置し、研究ユニットには約30名の教員が学部・分野を超えて参加しています。研究所スタッフ一同、学内外の皆さんと協力・連携しながら、大学の研究活動を地域の課題解決に役立ててまいりたいと考えておりますので、どうかよろしくお願ひいたします。

食農総合研究所長 大浦 由美

研究所活動の特徴・ポイント

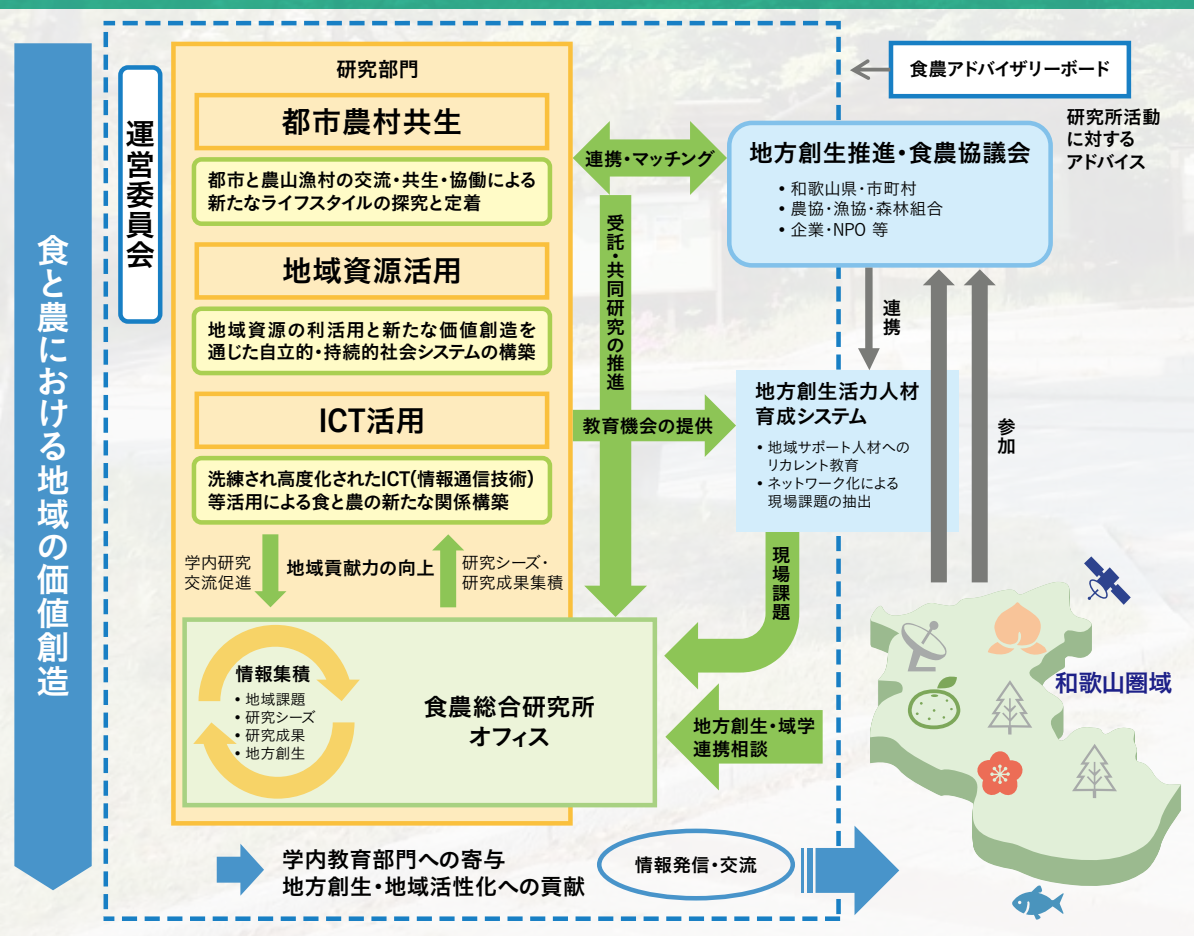
本研究所では、3つの研究ユニット（都市農村共生、地域資源活用、ICT活用）と食農部門の教育ユニットを設置しています。研究ユニットへの参加は毎年公募を行うとともに随時受付（登録申請）も行っています。また、研究ユニットのなかに研究プロジェクトを置き、様々な分野にまたがる「食と農」に関する研究活動を展開します。

教育部門への寄与・貢献

本研究所では、研究活動に加え、学内教育部門への寄与のほか、教育機会の地域への提供を通じて、地方創生・地域活性化に役立つような取り組みも考えています。

和歌山大学食農総合研究所

地方創生に資する新たな地域資源の価値創造拠点の形成



岸上 光克

キシガミ ミツヨシ・教授



〈研究分野〉

地域資源活用、教育部門

〈研究テーマと自己紹介〉

農産物流通・農協共販再編に関する研究／農山漁村における地域資源を活用した地域づくりに関する研究／農商工連携・6次産業化に関する研究

研究一筋ではなく、サラリーマン（民間企業）や地域連携コーディネーター（行政）などといった様々な業務経験を活かし、地域の皆さんにとって役立つ研究を行うとともに、地域に居つく人材の育成を行いたいと思います。

〈研究モットー〉

「泥臭い」「足を使った」「繰り返し」の現地調査で、理論と実践を融合させたいと思います。

辻 和良

ツジ カズヨシ・特任教授



〈研究分野〉

都市農村共生

〈研究テーマと自己紹介〉

農産物直売所の新たな役割と運営方法／農村ツーリズムが地域に及ぼす影響／移住者が地域農業と農村社会に果たす多面的な役割と移住・定住促進方策／新たな農地保全・有効活用と農地継承システム／和歌山県農業発達史

本研究所では、これまでの職場（和歌山県農業試験場）で取り組んできた農業経営研究の経験を活かしながら、新しい研究にチャレンジしていきたいと考えています。

〈研究モットー〉

問題解決のヒントは現場にあり。農業農村の問題を現場から考えます。

枚本 敏男

スギモト トシオ・特任教授



〈研究分野〉

地域資源活用

〈研究テーマと自己紹介〉

栽培環境の農作物の生育・収量・品質への影響解析／地域未利用資源の活用

29年4月に本研究所に採用されました。国の研究機関や大学での経験を元に、和歌山県の農業や食品加工に役立つ結果を生み出せればと思います。和歌山県の特産農産物の生産・加工について研究していきたいと考えています。

〈研究モットー〉

研究対象（植物）を自分で育て解析する。周囲の人に結果を評価・批判してもらう。

戴 容秦思

ダイ ヨウシンシ・特任講師



〈研究分野〉

地域資源活用

〈研究テーマと自己紹介〉

地域特産農畜産物の生産・流通と産地維持に関する研究／災害によるフードサプライチェーンへの影響と災害発生時の対応／アグリビジネスにおけるEコマース利用の実態と効果検証

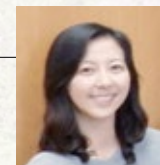
中国・雲南省から来日して十年間、私はクロスカルチャーの様々な学習・研究・教育の活動に関わってきました。その中で、地域の活性化に対する研究意欲と、グローバルな視点を持つ人材育成への思いが日々強くなっています。このような思いで、地域の皆さんとつながりをもち、地域に根ざした教育研究を取り組んでいきたいと考えています。

〈研究モットー〉

研究は、アイデアであり、地球規模の視野で考え、地域視点で行動することが大切です。現場百回の精神をもって研究していきたいと思っています。

植田 淳子

ウエダ ジュンコ・特任助教



〈研究分野〉

都市農村共生

〈研究テーマと自己紹介〉

グリーンツーリズムにおける農家女性の主体形成の変容／農村ツーリズムが地域に及ぼす影響／周遊型農村ツーリズムの検証

大学院を修了後に、九州にて約10年、都市農村交流活動である“グリーンツーリズム”を推進するNPOで仕事をしました。和歌山でも多くの方と関わりを持ち、都市と農村、人と人をつなげる仕事をして行きたいと思っています。

〈研究モットー〉

私の研究スタイルは、現場に密着したフィールドワークを通じて、農村の課題や今後の発展の方向性を明らかにしていくというものです。控え目ながらも、明るくたくましい農村の女性たちに焦点を当て、現場の声に耳を傾け、研究を行っていききたいと思います。

西岡 靖倫

ニシオカ ヤスミチ・域学連携コーディネーター



都市農村の各地域では、「地方創生」へ向けて様々な取り組みが行われています。

各地域に住む人々が、地域の課題に向き合い、解決していく仕組みが次世代につながると考えています。この取り組みが、それぞれの地域において、自分の夢が実現でき、希望が持てるようになれば、将来が明るいものになっていくと信じています。

これまでの自治体での経験を活かし、それぞれの地域が、大学とより一層連携を密にし、誇りをもって地域づくりに取り組めるよう、微力ながらも尽力させていただきます。

〔受託研究・共同研究〕

- 梅酢ポリフェノールのかぜ症候群・インフルエンザの予防に関する研究（紀州 田辺うめ振興協議会）
- 観光素材の掘り起こし及びコーディネート事業（紀美野町）
- 市民農園の新たな展開方式による都市農業再生方策に関する研究（JAわかやま）
- 岬町特産品開発事業に関する研究（大阪府岬町）